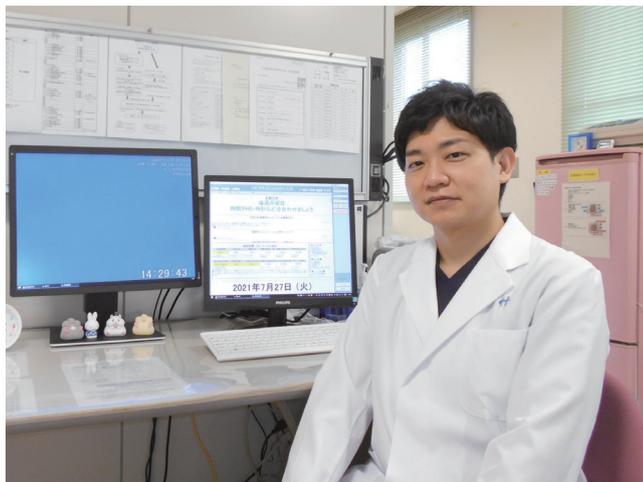


診療科紹介 小児科



はじめまして。小児科の大西と申します。小児科部門の紹介をさせていただきます。

私は令和3年4月より小児科での勤務を開始し、7月現在では業務も落ち着いてきました。1人体制ではありますが、小児科学会専門医としてこれまでの経験を活かし、幅広い疾患に対応できるよう精進していきます。

昨年は病院のご厚意により、救急科で研鑽を積ませていただきました。その期間に小児の救急患者の受け入れ体制を整えることができ、現在においても、姫路医療センターの近隣で発生した救急事案に対応することが可能となりました。私自身もですが、小児科が一般的に苦手とする外傷(交通外傷、熱傷、転落など)に関しても、必要に応じて救急科、外科の先生方にご指導を仰ぎながら対応しています。

また、姫路市において小児患者が入院可能な施設の一つであり、今後は入院患者数を増やしていきたいと思っておりますので、近隣の開業医の先生方からのご紹介を心よりお待ちしております。持続点滴、点滴からの抗生剤投与、酸素吸入、精査(エコー、CT、MRI、脳波)など必要と判断された症例はお気軽にご相談ください。

診療内容の特色として、呼吸器疾患においては昨



安心で安全な医療の提供を目指して

理念 思いやりのある最善の医療を提供し、患者さんと地域、社会に貢献します。

基本方針

1. 地域の中核病院として、高度の医療を提供するとともに他の医療機関との連携を推進します。
2. 救急医療に積極的に取り組みます。
3. 良質な医療を提供するため、健全な経営に努めます。
4. 医師、看護師をはじめ医療従事者の教育研修に努めます。
5. 医学、医療の進歩に貢献すべく臨床研究を進め、正しい医療知識の地域への発信を目指します。

年に導入されたマルチプレックスPCR検査を小児科でも使用させていただいています。1検体のみで新型コロナウイルスを始め、RS、ヒトメタニューモ、アデノ、ライノ、パラインフルエンザ等のウイルス、さらに百日咳、クラミジア、マイコプラズマまで確認ができ、患者さまへの負担が少なく、迅速なスクリーニング検査が可能です。結果の解釈には注意が必要ですが、不要な抗生剤投与を避けることが可能です。他に気管支喘息発作で入院が必要な症例にも対応できます。

神経内科疾患においては、てんかん症例のニーズが多いと思われます。当院では脳波、MRI検査が施行可能です。脳波の読影は未熟ではありますが、今後も症例経験を積み重ね、姫路市のてんかん診療にも微力ながら貢献できればと考えています。

循環器疾患に関しては毎月第3水曜日午後に倉敷中央病院より小児循環器学会専門医をお招きし、専門外来を設けておりますので、お困りの症例はご相談ください。

学校検診（低身長、肥満、検尿異常、心電図異常、心雑音）の精査にも対応します。-2.5SD以下もしくは成長率の低下を伴う低身長に関しては、必要に応じて成長ホルモン分泌刺激負荷試験を含めて確認し、肥満に関しては栄養科と連携して診療します。

1人では限界がありますので、総合病院としての特色を活かし、他の専門家の先生方をはじめ、多職種との連携を意識した診療を行ってまいります。また、地域の医療機関の先生方と連携させていただきたいと思っておりますので、お力添え頂けましたら幸いです。

他に院内の活動として、病児保育に協力し、職員が働きやすい環境作りを支援します。また、他科では小児の採血や点滴が難しい場合があり、依頼があれば小児科で対応し、他の専門科においても小児症例を受け入れしやすくなるように、今後もバックアップしたいと思います。



至らない点もあるとは思いますが、温かく見守って頂けますとありがたいです。なお、重症例や専門性の高い疾患に関しては対応できない場合もございますので、ご容赦ください。ご期待に応えられるように努力して参りますので、よろしくお願い致します。

【略 歴】

- 平成21年 神戸大学医学部卒業
- 平成22年 加古川西市民病院 初期・後期研修
- 平成25年 国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター（旧香川小児病院）
- 令和元年 国立病院機構 姫路医療センター

診療科紹介 形成外科

日頃より多くの患者様をご紹介いただきありがとうございます。

当科では、地域の皆様に高度な医療を提供すべく、形成外科疾患の治療を行っております。

なかでも当科でよく扱っている疾患は、各種外傷、皮膚腫瘍の治療、眼瞼変性疾患、下肢静脈瘤、難治性潰瘍などです。現在、常勤2名、非常勤1名の体制で診療を行っております。



【皮膚腫瘍】

一般的な良性の皮膚腫瘍に加えて、皮膚悪性腫瘍の中では、基底細胞癌・有棘細胞癌などがあります。悪性黒色腫や化学療法などが必要な進行した皮膚がんに関しては、他院ご紹介とさせていただきます。

皮膚腫瘍の特徴のひとつは、目で見て発見できることです。悪性腫瘍の場合、より早期に発見することがより良い治療、より良い予後につながります。急激な増大傾向を示したり、辺縁が不整、または不明瞭であったり、潰瘍化や出血を伴うような皮膚腫瘍を認めた場合は、ご紹介ください。

【眼瞼変性疾患】

主な疾患として眼瞼下垂症、眼瞼内反症、眼瞼外反症があります。多くは加齢性変化であり増加傾向にあります。

- ・眼瞼下垂症：まぶたが垂れ下がり視界を遮るため、見えにくさや肩こりなどにつながります。
- ・眼瞼内反症：下瞼の縁が内に向くことで睫毛が眼球を刺激し、流涙、疼痛、潰瘍化などを引き起こします。
- ・眼瞼外反症：下瞼の縁が外に向くことで眼球が乾燥しやすくなり、疼痛、潰瘍化などを引き起こします。

【下肢静脈瘤】

下肢静脈瘤は表在静脈の逆流により様々な症状を呈します。中でも、日常生活に支障のあるだるさやこむら返り、色素沈着、皮膚潰瘍などがあれば手術適応と考えます。当院ではレーザーによる静脈瘤治療は行っておりません。

【難治性潰瘍】

糖尿病性足病変や褥瘡などの、難治性潰瘍も扱っております。

ただし、当院では血行再建や透析症例は設備がなく扱っておりませんので、場合によっては他院にご紹介させていただくこともあります。

上記疾患が疑われる患者様がおられましたらご紹介ください。

今後もより良い医療を提供できるよう研鑽を積んでまいりたいと思います。ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



手術室の紹介

手術室看護師長 北川 純子

当院手術室は24時間体制で緊急手術を受け入れる体制を整えており、年間約3,000件の手術を行っております。対応している診療科は外科・乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、形成外科、眼科など多岐に渡っています。

特徴としては、消化器外科、呼吸器外科など内視鏡による低侵襲の手術に力を入れており、2019年10月からダヴィンチによるロボット支援手術（写真①）を導入しました。ロボット支援手術の実績は、令和3年6月末の時点で泌尿器科83件・呼吸器外科100件・消化器外科32件、合計215件となっております。コロナ禍においても感染対策を十分に行っており、術前は全身麻酔で手術を受ける全ての患者さんにPCR検査を実施させていただき、安全に手術を実施しています。

手術チームとして医師、麻酔科医師、看護師、臨床工学技士、薬剤師、放射線技師など多職種が連携し、情報共有を図りつつ相互協力を行い、手術が安全で円滑に遂行できるよう取り組んでおります。また、手術を受ける患者さんに対して、周術期を通して継続看護を行っております。術前訪問では、全身麻酔・腰椎麻酔下で手術を受けていただく患者さんに対し、自分の手術をイメージできるように入室から退出までの説明をおこない、不安の緩和に努めています。また、患者さんやご家族からの質問にもお答えし、信頼関係を築けるよう努めております。術後訪問では、術後に病棟へ引き継いだ看護問題に対して介入されているかの確認を行うと共に、患者さんに手術を受けた際に気づいたことを伺い、思いを傾聴することでケアの評価を行い、今後の手術看護に活かしています。

特に意識のない全身麻酔下で手術が行われる場合、いかに患者さんと家族の思いに寄り添えるかが課題と感じています。そのため、1) 実施した看護の振り返り、2) スタッフ間で情報共有を図り今後の看護に活かす、3) 看護観をたかめることを目的として、症例カンファレンスを行い、周術期看護の質の向上にむけた取り組みを行っております。また、複数科で合同手術を行う場合、医師・看護師などで合同カンファレンスを開催しています（写真②）。事前に手術の流れを共有することでチーム力が高まり、高い専門性を発揮することができます。このように術前から術中・術後を通して患者さんの手術に対する期待に応えられるように、心を込めて、チームで協力して周術期看護をおこなっています。

ロボット支援手術（写真①）



術前合同カンファレンスの実施（写真②）

Ns：シーツかけ
どうしますか？

耳鼻科 Dr：始めに気管切開をしてシーツを
はがしてからもう一度ドレーピングします。



形成外科 Dr：腹直筋は
左から摘出します。

参加者：医師（耳鼻科・形成外科・麻酔科）看護師

事務部長着任のご挨拶

事務部長 間庭 勝則

令和3年4月に赴任してまいりました事務部長の間庭と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

3月まで兵庫県小野市にあります「兵庫あおの病院」で事務部長として勤務しておりました。兵庫あおの病院は、国立病院機構の特色の一つであるセーフティネット(筋ジストロフィー、精神、重症心身障害等)分野の医療を主に担う慢性期の病院で、250床を有し、うち200床が重心病床で運用され、比較的ゆっくりとした時間が流れている印象で、やさしい医療の提供・やさしい看護の実践をモットーに一人一人の患者さんの一生とお付き合いする病院でした。



姫路医療センターは兵庫あおの病院とは全く違い、急性期医療を担う病院特有の、患者さんや病院スタッフもどことなく何かに急かされているような雰囲気を感じております。実は私は姫路医療センターに勤務するのは、今回が4度目となります。

私の職歴を一部紹介させていただきますと、初めて姫路医療センターに勤務したのは23年前、国立病院時代の平成10年4月に着任しました。当時は病院更新築整備の真っ只中で、着任してすぐB棟の工事が始まり、放射線部門・検査部門や手術室等が構築されるころでした。医療機器や検査機器等の購入手続き、また既存大型機器の移設調整等の業務に追われる日々を過ごしました。工事に対応するため、その都度外来等の配置の変更をせざるを得ない状況で、診察に来られる患者さんには動線がわかりにくく、いろいろとご迷惑をかけてしまったことを今でも残念に思っています。

2度目はその2年後、国立循環器病センター（現在の国立循環器病研究センター）に勤務した後、病院更新築整備工事の竣工（H16.3）や国立病院から独立行政法人へと移行（H16.4）する時期を姫路医療センターで勤務することができ、大変貴重な経験をさせていただきました。診療機能に関しては、県域におけるがん診療センター的役割を担う病院として、「地域がん診療連携拠点病院」（H19.1）に指定され、高度専門的医療・低侵襲医療を実践しながら、地域におけるがん診療の連携拠点として診療機能の充実と診療体制の整備を行っていく病院へと進めて参りました。

平成19年10月に姫路を離れましたが、2年間の近畿厚生局勤務を終え、平成21年10月に3度目の姫路医療センター勤務となりました。着任4年間の間に電子カルテの導入、病院機能評価の受審や災害拠点病院(地域・NHO)、地域医療支援病院の指定など、周りの方たちに支え

られながら、さまざまな取組みをさせていただき、地域医療連携の推進や診療機能の充実に微力ながら貢献できたのではないかと考えています。

その後、国立循環器病研究センター、兵庫あおの病院での勤務を経て、この度4度目の勤務をさせて頂くこととなりました。振り返ると姫路医療センターの勤務は、通算で12年となり、これまでのさまざまな経験が私自身を成長させてくれたと感じています。それゆえ姫路医療センター・地域に対する思い入れはとても強いものを持っており、「姫路愛」は、誰にも負けません。微力ではありますが、患者さんや病院のお役に立てるよう、業務に励んでいきたいと決意を新たに燃えています。

さて、昨年からの新型コロナウイルス感染症なるものにより、各医療機関の皆さまはその対応・対策に追われ、未だ着地点が見えない状況で懸命に対峙されているところだと思います。当院でも発熱外来の運用や感染症患者の受入を行うと同時に、通常の診療機能を維持していくため徹底した感染対策の取り組みが続いています。

私が着任した4月以降も、新型コロナウイルス感染症の勢いは衰える気配を見せず、更なる感染拡大により3度目の緊急事態宣言が発出され、姫路医療センターもコロナ患者の受入病床を更に増床し、診療に当たってきたところです。ここにきて、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置等による自粛やワクチン接種等の効果なのか、新規発生患者は減少傾向となりました。第5波が来ませんように！ このままこの先ずっと落ち着いてくれ！と、切に切に願いながら、気持ちを緩めることなく毎日の業務にあたっています。

姫路医療センターは、明治31年姫路陸軍衛戍病院として創設されて以来123年が経過し、播磨地域の中核的病院として地域に親しまれてきました。昭和20年に厚生省に移管され国立病院として発足、平成16年に独立行政法人化、国立病院機構姫路医療センターとして、地域の医療に貢献すべく努力しているところです。

当院の基本方針のひとつに「地域の中核病院として、高度の医療を提供するとともに他の医療機関との連携を推進します」があります。4月に就任した河村院長も地域の医療機関の皆様と「顔の見える関係」をつくり、より深い連携を行いたいという強い思いを持っています。まず今年度は、院長をはじめ各診療部長、医長による多くの病院・開業医さまへ訪問させていただくことから始めたいと動き出しています。訪問にお伺いした際は、忌憚のないご意見・ご要望を是非お聞かせ願えればと思います。

これからも姫路医療センターは、地域に密着した病院として、地域の医療に貢献し、皆様に頼られ・愛される病院を目指し頑張ります。改めまして、皆様の日頃からのご支援に感謝を申し上げるとともに、今後も引き続き、ご理解、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和3年度「看護の日」のイベントを終えて

看護広報委員会 橘 志津恵

「看護の日」は近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ5月12日と制定されています。姫路医療センターでは看護師の活動を多くの方に知っていただく機会として、「看護の日」のイベントを毎年5月に開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催時期を遅らせ、6月7日～11日の1週間、看護広報委員会を中心に開催しました。

今年度は「コロナ禍の中、患者さんや家族の方に喜んでいただけたこと」「新型コロナウイルス感染症情報」などをテーマにしたパネル展示や、「姫路医療センターの看護師の日常」をスライドショーとして上映しました。特に、昨年度立ち上げた新型コロナウイルス感染症専用病棟での看護を通して、私たちが感じた看護の大切さを地域の方々に伝えるため「新型コロナウイルス感染症専用病棟での看護の様子」を紹介しました。

来場された患者さんや家族の方には、感染防止に留意しながら約200名の方へノベルティグッズの配布と共に、パネルの説明をおこないました。パネルを見た方の中には、「コロナで看護師さんも大変だったんですね」「面会も工夫して出来るんですね」との感想を頂き、コロナ禍に対応する看護師の思いを伝える機会となりました。また、ワクチン接種の情報を熱心にメモされる方も複数おられ、関心の高さを感じると共に、良い情報提供の場ともなりました。

新型コロナウイルス感染症との戦いはしばらく続きそうですが、地域の患者、家族の方々に「姫路医療センターに来て良かった」と思っていただけのように、これからも「看護の心」を大切に、思いやりのある看護を実践していきたいと思えます。



新しいスタッフの紹介



臨床研修医
岡田 玖瑠美

1年目研修医、救急科岡田です。現在ドクターカーにて患者様を様々な医療機関へ搬送させて頂いております。その都度、丁寧に対応して頂き有り難う御座います。

また、毎度拙い文章で申し訳ありませんが、多くの開業医さん宛てに患者様の紹介状を送付させて頂いております。継続的な加療をして頂き、誠に有り難う御座います。

まだまだ未熟者ではありますが、多施設と連携し地域に貢献できる医師を目指し、研修に励んでおります。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ致します。



臨床研修医
北林 千遥

はじめまして。初期研修医1年目北林千遥です。

好きな食べ物はあんみつです。

姫路は初めてですが、立派なお城があり、にぎやかで素敵な街だな感じています。

これからどうぞよろしくお願い致します。



臨床研修医
堀本 恭平

はじめまして、姫路医療センター初期研修医1年目の堀本恭平と申します。

私は出身が加古川市で、中高は姫路だったのですが、大学は北海道だったので、6年ぶりの地元に戻ってきたこととなります。6年ぶりの姫路は駅前などが大きく変わっており、私がいいた頃とは違い驚いているところもありますが、人々の雰囲気などは変わらないところもあり、帰ってきたという安心感も感じています。

久しぶりに地元にもどり、姫路医療センターで研修医として精一杯頑張りたいと思いますので、皆様ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



臨床研修医
吉川 和志

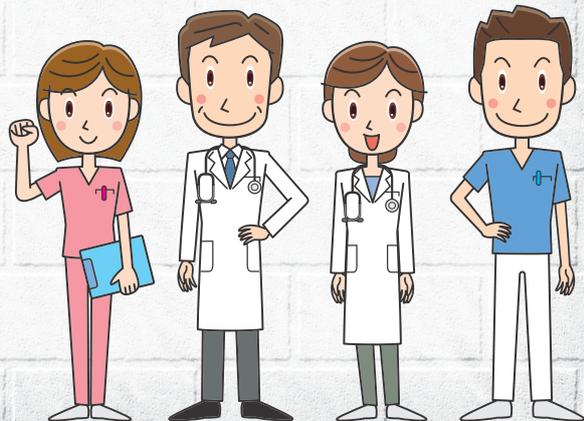
今年度4月より初期研修医として研修させていただくことになりました、吉川和志と申します。当院での研修も3ヶ月が過ぎましたが、自分の未熟さを感じる毎日です。支えてくださる周りの方々に感謝し、日々精進して参りたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。



MSW
有本 優愛

4月より医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）として勤務しております有本優愛と申します。一つ一つの支援を通して患者様・ご家族様の思いに寄り添えるように、他職種・他機関の方々と連携を図っていきたいと思います。

ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



編集後記

東京オリンピック・パラリンピック大会、57年ぶり自国にて開催！「どのようにすれば開催できるか」を突き詰め「最高レベルの感染拡大防止対策」で世界選手の招聘を決定した日本。きっとテレビを通じた東京五輪の観戦は、感動的な名場面が生まれ、多くの人々に希望と勇気を与えることでしょう。それは「人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証」。今の医療現場も同様、幾度も打ち寄せる大きな波が襲ってきても、心を一つに戦い続けたアスリート。当院は、地域医療支援病院として、これからも長年築き上げた絆を深め柔軟な体制で連携強化に努めます。